

令和元年度 事業報告書概要



社会福祉法人市原市社会福祉協議会

令和元年度は、台風を起因とする度重なる災害を受け、多くの市民が被災し、本会においては創設以来初めて災害ボランティアセンターの設置・運営を行いました。平時より地域の支え合い、助け合い活動を実践している地域福祉関係者の皆様のご協力をいただき、被災者の復旧・復興支援の一翼を担ったところです。また、今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う活動の自粛により、地域における活動も中止せざるを得ない状況が続いているところです。これらが要因となり、計画していた事業等が実施できなかったことから本報告書による実績数は総体的に減っておりますが、そのような状況下においても様々な活動を地区社協をはじめとする関係団体と協働で進めてきました。

トップマネジメント、トップセールスの強化

■組織運営事業 [事業報告書 P1]

1. 各会議体の開催

会議体	実施回数
正副会長会	11回(9月度は災害のため中止)
理事会	5回
評議員会	3回
常任委員会	1回(災害対策会議)
評議員選任・解任委員会	2回
災害対策会議	2回

2. 福祉顕彰事業 ※新型コロナウイルス感染防止のため、市民会館での開催を中止しました

会長表彰状・感謝状贈呈	
表彰状: 60名、2団体	感謝状: 125名、89団体

- 各会議体の開催
本市が災害を受けたことで、災害対策会議を開催し、災害ボランティアセンターの状況報告や地域との情報共有、併せて今後の連携の仕組みづくりについての検討を行いました。
- 福祉顕彰事業
当事業については三年に一度開催し、会長表彰、感謝状を贈呈します。本市が被災し、復旧・復興に協力いただいた団体に対しても感謝状を贈呈しました。

社協の見える化・見せる化の推進

■広報事業 [事業報告書 P3]

1. 機関紙「いちはら社協だより」の発行

町会回覧	79,000部	年2回
新聞折込	98,350部	年2回
災害VC号外	8,000部	1回



●社協だより災害VC号外

2. ホームページの運営

最新の情報を掲載し、市民に対する情報提供の迅速化を図りました。 URL: <http://www.ichihara-shakyo.or.jp>

3. SNS(フェイスブック・ツイッター)の導入

災害時に導入を間に合わせたことで、災害VC開設時で15万件を超えるアクセスがありました。

広報媒体	閲覧回数(3月31日現在)
フェイスブック	15,634件
ツイッター	173,269件
合計	188,903件



●ツイッター：災害VCからのお知らせ

- 広報事業
災害時に導入したSNSの活用により、ボランティア募集や活動報告など災害ボランティアセンターの情報を迅速に発信することができ、安定した災害支援活動に繋がりました。また、いちはら社協だよりの号外を発行し、災害ボランティアセンターの活動報告を行いました。

財政基盤の充実・強化

■ 社会福祉基金運用事業 [事業報告書 P5]

1. 普通預金 5,228,428 円

2. 定期預金及び債権

(1) 定期預金 50,000,000 円 (定期預金及び債権については、預入金額の変動はありません)

(2) 債権 (単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価評価額	評価損益
千葉県第10回公募債	100,000,000	117,740,000	17,740,000
政府保証債第284回日本高速道路保有債務返済機構債権	100,000,000	96,770,000	△3,230,000
合計	200,000,000	214,510,000	14,510,000

※債権は満期保有としているため、満期時には帳簿（額面）価額償還となります

社会福祉基金総額	255,228,428 円
----------	---------------

■ 基金取崩し財源の活用

1. 地区社協拠点等整備事業

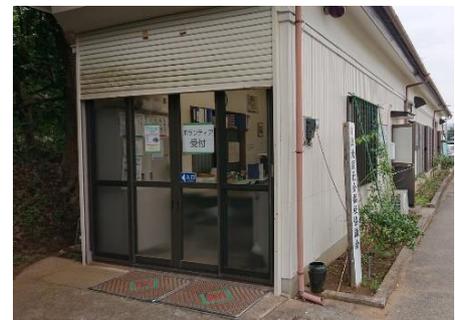
拠点整備費合計	62,320 円(1地区) H25年度からの合計 6,853,050 円
維持管理費合計	905,601 円(8地区)



●辰巳台地区社協



●国分寺台地区社協



●市津地区社協

2. 地区社協事務局運営経費

160,000×11 地区 = 1,760,000 円	1地区年額 160,000 円
-----------------------------	-----------------

3. 地区社協車両貸与事業

地区名	車両リース代	備考
辰巳台	159,576 円	コーディネーター支援及び買い物代行として



○基金取崩し財源の活用

地域における体制強化等の財源として、社会福祉基金 2,887,497 円を取崩し活用いただきました。

みんなで支え合い助け合える地域づくり

■ 小域福祉ネットワーク、地区社協活動支援・運営支援

1. 小域福祉ネットワークにおける各会議体の実施概要

[事業報告書 P6]

年度	開催日数	延参加者数
R1度	371日	5,571名
H30度	402日	6,027名
増減	△31日	△456名



●世代間交流事業



●登下校時の見守り活動



○小域福祉ネットワーク

地区担当職員が積極的に参加し、課題解決に向けた助言や先駆的な取り組み事例の情報提供等を行うことで、活動分野の拡充に向けた支援を行い、地域特性に応じた事業を展開しています。各会議体の開催日数は減りましたが、台風災害や新型コロナウイルス感染予防対策等によるものです。

2. 地区社協における各会議体の実施概要

[事業報告書 P8]

年度	開催日数	延参加者数
R1度	523日	5,221名
H30度	443日	5,299名
増減	80日	△88名



●地域活性化事業



●災害支援ボランティア事業



●日常生活支援事業



●総合相談会



○地区社協

災害や新型コロナウイルス感染予防による影響はありましたが、地区行動計画推進委員会や第2層協議体等、地区社協が中心となって行う会議体が増加し、地域における課題の把握や解決に向けた具現化が進められております。



■ 地域づくり支援事業

1. 各種サロン事業 [事業報告書 P9]



●いきいきサロン



●はつらつサロン



●子育てサロン

年度	開催日数	延参加者数	延支援者数
R1度	734日	16,750名	5,054名
H30度	981日	21,262名	6,523名
増減	△247日	△4,152名	△1,469名

○ふれあいサロン

災害や新型コロナウイルスの影響による事業中止に伴い減少していますが、66会場、延べ16,750名が参加(利用)し、子育て家庭や障がい、高齢者の孤立防止及び集い・交流の場として市民の方々に利用いただいております。

2. 子どもの居場所 [事業報告書 P10]



●子ども(地域)食堂

地区	名称	開催日数	参加者数	支援者数
辰巳台	トイトイ食堂	11日	267名	85名
国分寺台	地域食堂コンパス	12日	96名	123名
五井	子ども食堂	1日	175名	30名

○子どもの居場所

少子化、核家族化による子育て環境の変化に伴う新たな福祉コミュニティづくりの拠点として、食事等を通じて地域の方が主導して実施しています。令和元年度は新たに五井地区で試行的に開催され、多くの方に参加いただきました。

3. 安心生活見守り支援事業 [事業報告書 P11]

年度	実施数	見守り希望者数	安心訪問員数	延訪問回数
R1度	36 ネットワーク (38 小学校区)	1,189 名	1,372 名	19,171 名
H30度	34 ネットワーク (36 小学校区)	940 名	1,119 名	13,584 名
増 減	2 ネットワーク	249 名	253 名	5,587 名



○ 安心訪問員交流会

期 日	1月14日(火)
場 所	市原市消防局 2階講堂
参加者	76名
内 容	実践発表 ・わかば福祉ネットワーク ・国分寺台西小学校区ふれあいネットワーク 第1部 情報交換(グループワーク) テーマ「見守り活動について語り合おう ～災害を体験して、今思うこと」



○安心生活見守り支援事業

新たに2校区（白金小学校区、青葉台小学校区）で実施されました。安心訪問員を対象とした基礎研修会やフォローアップ研修会など、継続、安定した事業活動を支援することにより、安心訪問員約240名の増加となりました。

4. 歳末見舞金配布事業・地域福祉支援事業の推進 [事業報告書 P13]



●地域福祉支援事業

内 容	事業実績	H30度	増減
生活困窮世帯見舞金	2,136,000 円 (1世帯あたり8,000円×267世帯)	2,040,000 円	96,000 円
地域福祉支援事業	1,484,000 円(38 団体)	1,445,000 円	39,000 円
合 計	3,620,000 円	3,485,000 円	135,000 円

○歳末たすけあい援護

歳末たすけあい事業の一環として、生活困窮世帯 267 世帯に対して見舞金を配布しました。また、地域福祉支援事業は地区社協及び小域福祉ネットワークの38団体に助成し、高齢者の見守り支援活動や地域交流事業等を行っています。

5. 高齢者通いの場推進事業(市原市補助事業) [事業報告書 P13]

地区	会場数	開催回数	延参加者数
辰巳台	4会場	42回	627名
市津	4会場	41回	586名
国分寺台	11会場	364回	3,241名
ちはら台	15会場	238回	2,843名
姉崎	10会場	128回	2,854名
有秋	4会場	39回	659名
三和	29会場	330回	6,184名
南総	20会場	336回	4,185名
加茂	14会場	168回	1,773名
五井	6会場	112回	1,856名
市原	65会場	1,424回	18,143名
合計	182会場	3,122回	42,951名



○通いの場推進事業

市内182会場で実施され、介護予防及び高齢者の社会参加活動の拡充が図られました。会場数182会場(22会場増)延べ回数3,122回(1,265回増)、参加者数42,951名(14,510名増)で多くの方に参加いただいております。

みんなの生活を支えるための体制づくり

■ 総合的な相談支援体制の充実 [事業報告書 P14]

1. 相談・貸付事業

○総合相談

年度	生計	職業生業	教育青少年	障がい者福祉	冠婚葬祭	療養健康	生活	その他	合計
R1度	432件	3件	229件	14件	3件	11件	121件	65件	878件
H30度	492件	3件	173件	16件	3件	17件	101件	58件	863件
増減	△60件	0件	56件	△2件	0件	△6件	20件	7件	△15件

○各種貸付 [事業報告書 P24]

区分	相談件数	貸付件数	貸付金額	備考
生活福祉資金貸付事業	287件	206件	81,009,200円	県社協事業
療養資金貸付事業	6件	5件	1,164,000円	市受託事業
福祉資金貸付事業	16件	8件	1,200,000円	市社協事業
合計	309件	219件	83,373,200円	

○各種貸付

貸付額合計が83,373,200円で、県社協事業の生活福祉資金が最も多くなっています。その中でも高校や大学の進学、通学等に必要な経費を貸し付ける教育支援資金が6千5百万円を超え、大きな割合を占めており、平均すると1件約135万円で48件の貸付を行っております。

■ 地域生活を支援する事業の充実 [事業報告書 P17]

1. 福祉サービス利用援助事業

○訪問・相談支援件数

契約者数	計画に基づく訪問支援件数	緊急(臨時)訪問支援件数	相談支援件数	支援合計
731件	857件	165件	1,929件	2,951件

○新規相談・利用件数

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	H30度	増減
新規相談件数	99件	3件	7件	1件	110件	73件	37件
新規利用件数	17件	0件	0件	1件	18件	23件	△6件

○福祉サービス利用援助事業

高齢や障がい等によって、判断能力の低下した方々への金銭管理等を行っており、新規相談99件中、17件が本サービスの契約へ繋がっています。対応、契約件数は増加していますが、支援に相当の時間を要することから、現在は新規対応が常時3~4ヶ月待機状態となっております。

2. 成年後見制度相談事業(市委託事業)

(1) 弁護士による専門相談

○会場：社協事務局 毎月1回 13:30~16:30

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談者数	3件	3件	3件	3件	1件	3件	3件	3件	3件	3件	2件	2件	32件

○会場：なのはな館 年2回 13:30~16:30

月	6	10	計
相談者数	3件	1件	4件

相談者1名あたりの相談時間：60分
1日の相談枠数：3枠

(2) 職員による専門相談

	電話相談	窓口相談	訪問相談	合計
相談者数	18名	21名	3名	42名

制度概要や申立書類の書き方等、法律的な助言を必要としない相談について、職員による一般相談を実施

Q 誰が相談のってくれるの？
A 千葉県弁護士会から派遣される弁護士（1名）が相談対応をします。
Q 相談するのに予約は必要なの？
A あらかじめ予約がしてください。
（※当日、空いていれば相談は可能です。）
Q 相談するに料金がかかるの？
A 無料です。
Q 相談時間の制限はあるの？
A 緊急な相談をしっかりと受けたいと思っておりますので、1人あたり約60分程度を目安とします。
Q どのような相談のってくれるの？
A 次のような相談になります。
①成年後見制度に関する相談
②申立や手続きに関する相談
③既に後見人（監事等）を就いている方の手続等に関する相談

成年後見制度って…？
認知症や知的障がい、精神障がいにより判断能力が十分でない方の権利や財産を保護し、その守る安心暮らしを支援する制度です。
成年後見制度に関する相談窓口（常設）
「成年後見制度を使う時、どこに相談するの？」
「廣の相談で後見制度利用とされたが、どうするの？」
「費用何で取られるんだって？」
といった、成年後見制度に関する質問は、お気軽にお問合せください。社協職員が、対応します。
相談時間：各時30分～17時15分（平日）
連絡先：043-56-2555
いなほら後見支援センター 津浦支店
通話？ 誰が入用？
家の内線？ 誰が？
話の途中で切れる？
話の途中で切れる？
話の途中で切れる？

○成年後見制度相談事業

成年後見制度に関する弁護士相談は毎回予約が埋まる状況で、32名の利用があり、相続等の法的問題について弁護士による助言、指導が行われました。また、新たに職員による一般相談を行い、訪問等を含め42名の利用がありました。

■ 子育て・高齢者・障がい者支援活動の充実

1. いちはらファミリー・サポート・センター事業

[事業報告書 P18]

年度	延相談件数	利用会員登録者数	協力会員登録者数	両方会員登録者数
R1度	117件	532名	122名	28名
H30度	76件	471名	122名	21名
増減	41件	61名	0名	7名



●ファミリー・サポート・センター支援の様子

2. 出産前後家事等サポート事業

[事業報告書 P19]

年度	延相談件数	実利用者数	延利用回数	延利用時間
R1度	50件	64名	194回	372時間
H30度	44件	56名	213回	401時間
増減	6件	8名	△19回	△29時間



●出産前後家事等サポート事業コーディネートの様子

○子育て支援事業

育児不安を抱える母親に相談援助を通じて適切な機関への繋ぎ・橋渡しの役割を担うことができました。新型コロナウイルス感染症により、保護者の在宅の割合が増えたことにより、支援件数は減少傾向となっています。

3. 生活支援体制整備事業

[事業報告書 P20]

- ・地域に不足するサービスの創出に向けた地域アセスメント
- ・サービスの担い手の育成（元気な高齢者の活動の場の確保やサービスの開発）
- ・サービス提供主体、地域関係者間の連携・協働体制の促進（ネットワークづくり）
- ・第2層における支援ニーズと取り組み（既存サービス等）のマッチング
- ・その他（第2層協議体運営支援、関係者フォローアップ研修等）



●第2層協議体関係者フォローアップ研修



●第2層協議体（11地区計50回開催）



○生活支援体制整備事業

具体的な生活支援等の仕組みを検討する地区では、試行実施案を検討しました。併せてニーズ調査や担い手確保に向けた活動意識調査を実施し、元気な高齢者を活動に繋げることができました。また、専門アドバイザーによる全委員・生活支援コーディネーター対象のフォローアップ研修（講義、実践報告）を行い、更なる意識醸成に努めました。その後の各協議体では、具現化に向けた活発な議論が行われました。

4. 居宅介護支援事業 [事業報告書 P22]

区分	R1度延べ利用数	H30度延利用者数	増減
要介護	1,091名	1,154名	△63名
介護予防	273名	255名	22名
合計	1,364名	1,409名	△41名

○居宅介護支援事業

年度当初に利用者数の減少があったが、包括支援センターや病院等に働きかけ、徐々に利用者数の回復を図ることができました。また、災害時には利用者の安否確認等、迅速な対応を行い、在宅生活を支えました。

■ 生活困窮者支援活動の充実

1. 応急法外援護 [事業報告書 P25]

年度	相談件数	交付金額
R1度	154件	362,680円
H30度	260件	1,097,890円
増減	△106件	△735,210円

○応急法外援護

公的な福祉制度等で対応することができない方に対し、応急的な生活費として少額の資金を交付するものです。今年度は生計に関する相談全般で減少が見られました。

みんなの顔がつながる仕組みづくり

■ 地区行動計画の推進

1. 地区行動計画推進委員会の開催 [事業報告書 P26]



○地区行動計画の推進

計画の実効性を高め、確実に活動・事業を実施していくため、「地区行動計画推進委員会」を設置し、「第2層協議体」及び「市原市地域福祉パートナーシッププラン」の見直しに向けた意見交換会（ワークショップ）と一体的に進め、地域課題及びこれからの地域福祉のあり方、地域共生社会の実現に向けた情報・方向性が共有されました。

■ 福祉圏域間の連携・協働体制の強化

1. 地区社協連絡会の運営 [事業報告書 P27]

項目	期日	議 題
第1回	5/29	ふれあいサロン事業見直しの基本的方向性(案)について
第2回	12/24	令和2年度以降の通いの場事業について 災害時における地区社協の対応について
第3回	1/24	令和2年度以降の通いの場事業について
第4回	2/7	令和2年度以降の通いの場事業について
第5回	2/29	令和2年度以降の通いの場事業について 令和2年度地区社会福祉協議会補助金積算額(案)について

2. 地区社協・小域福祉 NW 合同研修会(市と共催) [事業報告書 P27]

期 日	1月25日(土)
場 所	市原市消防局 2階講堂
参加者	66名
内 容	講義:長期・高齢化する「ひきこもり」 講師:ジャーナリスト 池上 正樹 氏

3. 小域福祉ネットワーク連絡会議 [事業報告書 P26]

期 日	内 容
3月	・実践発表「災害に備えて～地域で今からできること～」 ・グループワーク「災害時における小域福祉ネットワークの対応について」

※上記内容で開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大を考慮し中止となりました

地区社協連絡会や小域福祉ネットワークとの合同研修会を実施し、地域からの意見集約の場、市との意見交換の場、また、今後の方向性の共有の場となったことで、今後の事業展開に関しての共通理解・共通認識に繋がりました。

みんなで取り組むための基盤づくり

■ ボランティアセンター事業

1. ボランティア活動に関する相談・コーディネート [事業報告書 P29]

相談内容	R1度	H30度	増減
活動希望、活動中の問題に関すること	43件	76件	△33件
派遣依頼に関すること	108件	154件	△46件
その他	96件	78件	18件
合 計	247件	308件	△61件

2. 登録ボランティア

区 分	R1度	H30度	増減
ボランティアグループ	195団体 (4,719名)	189団体 (4,657名)	6団体 (62名)
個人ボランティア	160名	147名	13名

※ 災害ボランティアに関する内容は含まれていません

3. 講座等 [事業報告書 P31]

区 分	実施回数	参加者
ボランティアフォローアップ講座 (市主催「地域共生社会を考える講演会」と合同開催)	1回	20名
子育て支援者交流会	1回	67名
青少年ボランティア講座	全2回	延23名
傾聴ボランティア養成講座	全3回	延120名
出前講座	20回	22団体
市原市災害ボランティア活動連絡調整会議	4回	7団体
災害ボランティアセンター設置運営訓練	1回	119名



●ボランティアフォローアップ講座



●子育て支援者交流会



●青少年ボランティア養成講座



●傾聴ボランティア養成講座



●出前講座



●災害ボランティアセンター
設置運営訓練

○ボランティアセンター事業

各種講座や交流会等の開催により、参加者の意識醸成や支援者同士の連携づくりの契機となりました。災害ボランティア活動関連では、市民大学での啓発や連絡調整会議を通じた関係機関・諸団体との連携体制の強化を図りました。また、大規模災害時の対応に備えた災害ボランティアセンター設置運営訓練を通じ、役割・行動等を再認識するとともに職員、関係者の意識醸成に繋がりました。

■ 地域福祉連携体制の強化

民生委員・児童委員との連携強化 [事業報告書 P34]

○市原市民生委員児童委員協議会事務局

内 容	回数等	内 容	回数等
正副会長・部会長会の開催	6回	会計監査の実施	1回
理事会の開催	2回	代議員会の開催	1回
地域福祉推進部会の開催	4回	主任児童委員部会の開催	4回
秋田市民児協より視察研修会の受入	1回	市民児協全体研修会	1回
その他研修会、会議等の参加	15回、延べ 212 名参加		



●秋田市民児協視察研修会の様子

令和元年度は12月に3年に1度の改選があり、131名の委員が退任、136名の委員が新たに委嘱されました。新任を含め新たな体制として、地区担当職員と連携し情報提供に努めました。

活動状況

■ 市内における令和元年度の活動状況

延活動日数	3,492 日	1年365日のうち、1日あたり10カ所(地域)で、何かしらの地域福祉活動が行われました。
延活動者数	21,199 名	1日あたり6名、1か月あたり182名が地域福祉活動の担い手として参加しています。
延活動時間数	13,689 時間	1日あたり3時間55分、1か月あたり118時間を地域の福祉活動に充てていただいています。
延参加者数	24,409 名	1日あたり7名、1か月あたり210名の市民が相談や支援を受けています。

令和元年度は台風災害や新型コロナウイルス感染防止等により、地域における活動にも大きな影響がありましたが、そのような中でも上記のとおり多くの皆様に様々な活動に取り組んでいただき、多くの市民の日常生活が支えられました。

指定管理施設の運営

4施設とも台風災害や新型コロナ対策による閉館の影響を受け貸室利用の減少による利用者の減少が見られたが、利用者アンケートを活用し、魅力ある講座や事業を展開し、利用促進に努めています。
 また、令和2年度は、姉崎保健福祉センターが指定管理者の更新となることから、次期指定の獲得に向けて対応を図っていきます。

■ 老人福祉センター [事業報告書 P37]

○利用者数

区 分	R1 度	H30 度	増 減
老人福祉センター	22,697 名	26,444 名	△3,747 名
開館日数	266 日	292 日	△26 日
1日当たりの利用人数	85.3 名	90.6 名	△5.3 名



●防犯講座



●アートフラワー教室



●健康増進コーナー

■ 姉崎保健福祉センター [事業報告書 P38]

○利用者数

区 分	R1年度	H30年度	増 減
地域福祉センター	64,574名	69,292名	△4,718名
老人福祉センター	20,538名	24,813名	△4,275名
児童館	12,237名	13,317名	△1,080名
合 計	97,349名	107,422名	△10,073名
開館日数	310日	340日	△30日
1日当たりの利用人数	314名	315.9名	△1.9名



●地域福祉センター
「アネッサ発 クリーン大作戦」



●老人福祉センター「絵手紙教室」



●児童館「アネッサ探検隊」

■ 三和保健福祉センター [事業報告書 P43]

○利用人数

区分	R1年度	H30年度	増減
地域福祉センター	16,226名	18,340名	△2,114名
老人福祉センター	17,836名	21,282名	△3,446名
児童館	10,060名	10,639名	△579名
障がい者福祉センター	16,044名	17,640名	△1,596名
合計	60,166名	67,901名	△7,735名
開館日数	308日	341日	△33日
1日当たりの利用人数	195.3名	199.1名	△3.8名



●地域福祉センター「歌声喫茶」



●老人福祉センター「ヨガ教室」



●児童館「知ってよかったママの救急法」

■ 南部保健福祉センター [事業報告書 P47]

○利用人数

区分	R1年度	H30年度	増減
地域福祉センター	16,680名	16,067名	613名
健康増進室	30,390名	41,635名	△11,245名
老人福祉センター	4,391名	4,457名	△66名
児童館	7,120名	7,287名	△167名
障がい者福祉センター	5,400名	4,820名	580名
合計	63,981名	74,266名	△10,285名
開館日数	304日	343日	△39日
1日当たりの利用人数	210.4名	216.5名	△6.1名



●健康増進室「アクアウォーク」



●老人福祉センター
「インゾヨイ・ホー・ル・イクサツ」



●児童館「親子体操教室」

災害ボランティアセンターの運営



■ 市原市災害ボランティアセンター

台風第15号、第19号、10月25日大雨災害により、本市は甚大な被害を受けました。市原市地域防災計画に基づき、災害ボランティアセンターを設置し、災害ボランティアによる支援活動を展開しました。

◆台風15号関連

開設場所	市原市社会福祉協議会 事務局内
開設期間	9月12日(木)~10月18日(金)
ボランティア受付人数	1,069名
ニーズ受付件数	1,038件(受理826件、不受理212件)
マッチング数	548件
ボランティア派遣人数	1,818名(一般ボランティア1,022名、専門ボランティア796名)



●ブルーシート張り 620件



●清掃・片付け・家具移動等 142件



●補修・解体 36件

■ サテライト災害ボランティアセンター

竜巻被害を受けた市津地区では、地区社協や小域福祉ネットワーク関係者等にご協力いただき、サテライト災害ボランティアセンターの設置・運営を行いました。

◆台風19号関連

開設場所	市原市災害VC 市原社協事務局 サテライト災害VC 市津地区社協事務局内
開設期間	市原市災害VC 10月17日(木)~10月30日(木) サテライト災害VC 10月20日(日)~10月29日(火)
ボランティア受付人数	311名
ニーズ受付件数	69件(受理31件、不受理38件)
マッチング数	41件(台風被害12件、竜巻被害29件)
ボランティア派遣人数	438名(一般ボランティア434名、専門ボランティア4名)



●サテライト災害ボランティアセンターマッチングの様子



●台風、竜巻被害に対する清掃・片付け 19件



●専門ボランティアによる倒木処理 12件



●活動エリアまでボランティアバスの運行

■ 市原市災害ボランティアセンター

◆10月25日大雨関連

開設場所	市原市社会福祉協議会 事務局内
開設期間	10月27日(日)~11月8日(金) ※11月9日(土)~11月15日(金)最終確認期間
ボランティア受付人数	392名
ニーズ受付件数	38件(受理19件、不受理19件)
マッチング数	28件
ボランティア派遣人数	420名(一般ボランティア)



●清掃・片付け・家具等運び出し 16件



●土砂処理・その他 3件

■合計

開設日数	市原市災害VC 65日 サテライト災害VC 10日
ボランティア受付人数	1,772名(新規1,187名、再登録585名)
ニーズ受付件数	1,145件(受理876件、不受理269件)
マッチング数	617件
ボランティア派遣人数	2,676名(一般ボランティア1,876名、専門ボランティア800名)



●国分寺台地区社協、ふれあいネットワークからおにぎり、飲料を提供いただきました



●サテライトVC(市津地区)地域のボランティアから豚汁を提供いただきました



●依頼者からボランティアへお礼の声

本会として、初めて災害ボランティアセンターを設置しました。度重なる災害を受けたことにより長期にわたる運営となりましたが、全国から駆け付けていただいたボランティアをはじめ、多くの関係者にご協力いただき、被災者のニーズに答えることができました。

指定管理施設における災害対応

指定管理施設の災害時における対応として、浴室の無料開放やサテライト災害ボランティアセンター、被災地支援活動場所へボランティア送迎バスの運行を行いました。

◆老人福祉センター

浴室の無料開放	9月12日～9月30日 16日間(清掃日を除く) 延べ442名が利用
マイクロバスの運行	ボランティアバスによる活動場所への送迎

◆姉崎保健福祉センター(アネッサ)

浴室の無料開放	9月12日～9月30日 17日間(清掃日を除く) 延べ745名が利用
飲料水(水道水)の給水	9月12日～9月30日 17日間 延べ14名が利用
スマートフォン、携帯電話の充電コーナー	9月15日～9月30日 17日間 延べ16名が利用

◆三和保健福祉センター(サンハート)

浴室の無料開放	9月14日～9月30日 15日間(清掃日を除く) 延べ680名が利用
---------	------------------------------------

◆南部保健福祉センター(なのhana館)

温水シャワーの無料開放	9月13日～10月31日のうち28日間 延べ204名が利用
救援物資集積所としての施設開放	9月15日～9月19日までの5日間
福祉避難所としての施設開放	10月12日、10月25日の2日間 延べ17名が利用

その他の被災地支援活動

■上総いちほら国府まつりへの出店(義援金)

社協が事務局を担う千葉県共同募金会市原市支会では、第9回上総いちほら国府まつりへ出店し、売上げ及び街頭募金の総額を市原市へ寄付しました。

内容	金額(売上)
街頭募金	22,823円
ポップコーン、飲料販売	106,900円
くじ引き	51,600円
合計	181,323円



●京葉高校のみなさん



市内の被災地復興支援活動の一環として、売り上げ及び募金の合計181,323円を全額市原市災害義援金として寄付させていただきました。
 なお、街頭募金については、千葉県立京葉高等学校の生徒さんに募金ボランティアとしてご協力いただきました。